

老婆心ながら

～校長からの一言～

文部科学省「スマホの中学校持ち込み容認」方針を考える。 ～「みんな持っている」の「みんな」って、誰のこと？～

今年の6月24日、「文部科学省は、スマートフォンや携帯電話を持たせることが、緊急時の対応や防犯面で有効だとし、中学校へのスマートフォンや携帯電話の持ち込みを学校内の使用に制限を設けた上で認める方針を固めた。」というニュースが飛び込んできました。

私自身も近い将来こうなるだろうと予想していましたが、「そうすべきだ」とも思っていたので、そう驚くことではなかったのですが、中学校としては、機器本体の管理や利用に関する約束事の作成と徹底など、また一つ、厄介なことが増えるのかというのが正直な感想です。

そんな中で、保護者の皆さんに確認してほしいことがあります。それは、あくまでも、このスマートフォンや携帯電話（以下、スマホと略す）の中学校への持ち込み容認案は、「持ってこなくてはいけない」ではなく「持ってきてもよい」という意味で、各家庭で持たせるかどうかを決めてよいということです。

今でも、家庭の方針で「スマホは高校生になってから」と決めており、スマホを持たせていない家庭もあると思います。もう数年が経ちますが、我が家も子どもたちには高校生になるまでスマホを持たせませんでしたし、持たせなかったことで特に困ったことはありませんでした。今でも、昭和中学区であれば、中学校生活において特別な場合を除き、スマホを持たせる必要性をあまり感じていません。確かにスマホは防犯面で有用な部分もあります。しかし、スマホを買い与えたきっかけが「防犯面」という家庭がどれだけあるのか。むしろ、「みんな持ってる」「みんな持たせてる」という言葉がきっかけで持たせることになった家庭も多いのではないのでしょうか。（特に男子）今、生徒指導上の大きな問題の一つに、スマホ依存症による不登校（昼夜逆転して、朝起きられない）の問題があります。また、今後は、スマホを学校に持ってくるようになれば、登下校時の「ながら歩き」による交通事故の増加も心配されます。スマホを持たせることには、メリットとデメリットがあります。我が子の性格や持たせる必要性の大きさ等をよく勘案し、まず家庭での「スマホ持たせることに対する姿勢」を一度考えてみてください。

近い将来、「みんな持ってきている」という発言を耳にするようになると思いますが、「みんな」とは一体誰を指しているのか？もしかすると、自分に都合の良い半径数メートル以内だけの仲間を指して「みんな」といつているのかもしれないことを認識しておいてください。「みんな」という言葉に惑わされることなく、毅然とした姿勢で我が子と向き合っていきましょう。